

第 41 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	岡田ゼミⅡ	チーム名	浜っ子 山っ子
タイトル	神戸 1/2		
テーマ群	e)産業・企業 f)歴史・思想		
メンバー	森下 銀河 藤原 颯矢 岩瀬 弘之 中野 佑一 濱崎 淳平 道林 優介 大滝 隆介 三宅 和智 吉本 紀之		
研究計画内容	<p>今日、日本経済は停滞し、各地方自治体の財政は苦しくなっています。その中、注目を浴びているのが観光産業です。神戸は観光地としての歴史が古くからあります。今回、私たちは山をテーマとして有馬温泉、海をテーマとしてハーバーランドを取り上げ、神戸観光産業の推移を考察しました。</p> <p>有馬温泉は古くは飛鳥時代から温泉の記述があります。その後秀吉の支援もあり、日本を代表する温泉地となりました。そして戦後も、日本の経済成長と共に有馬温泉も成長していきましたが、バブル崩壊や阪神淡路大震災により観光客数は減少していきました。</p> <p>ハーバーランドは「海につながる文化都市の創造」をテーマとして、ウォーターフロントとしての独特の景観と大規模開発によるニーズに合った施設の有利性を活かし、グランドオープンしました。阪神淡路大震災の時には多少の被害を受けたものの早期に再開し、オシャレな港町として発展していきました。しかし、昨今の不景気と需要の変化により、客足が遠のいていきました。</p> <p>これらの問題に対し有馬温泉、ハーバーランドの両観光地はどのような対策を行っていたのか。そして、今日問題となっている「高齢化社会」による国内観光客の減少や景気低迷、デフレーション等による観光客の低コスト指向にどう立ち向かっていくのか。両観光地の性質や特徴を過去・現在・未来という観点から見ていきます。古くからあるブランドに頼ることなく新しいことをする有馬温泉と、新しい観光地なのに古い体質から抜け出し切れていないハーバーランド、そこから見えてくる新旧両者の実態や問題点、これから両観光地が成長する為に必要となってくるものは何か？</p> <p>地方自治体の担い手である観光産業のこれまでとこれからを私たちなりに考え、議論してきました。その結論をぜひ見に来てください。</p>		